IV. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会の実施報告

1. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会の実施状況	54
1) 第1回研修会の概要	54
2) 第2回研修会の概要	55
3) 第3回研修会の概要	56
2. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会の参加者アンケート	57
1) 第1回研修会の参加者アンケート	57
2) 第2回研修会の参加者アンケート	62
3) 第3回研修会の参加者アンケート	65

1. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会の実施状況

1) 第1回研修会の概要

日程	①令和元年7月19日	会場	①宇部市文化会館	参加者	55名
	②令和元年7月30日		②ほしらんどくだまつ		26名
目的	本事業の周知とモデル事業所の募集				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の概要説明 ・ 障害者就業・生活支援センターの役割と動向ならびに連携について 				

(プログラム)

13:30~13:40 挨拶 山口県健康福祉部 障害者支援課 社会参加推進班
主幹 小澤 俊昭
特定非営利法人 山口県社会就労事業振興センター
理事長 益原 忠郁

13:40~14:20 研修1

「障害者一般就労移行チャレンジ事業概要説明とその効果&質疑応答」
山口県健康福祉部障害者支援課社会参加推進班
主任主事 河村真吾

14:20~15:30 研修2

「障害者就業・生活支援センターの役割とその動向並びに連携等について」
山口労働局職業対策課

地方障害者雇用担当官 須藤 加津路

15:30~15:40 休憩

15:40~16:10 報告

「障害者一般就労移行チャレンジ事業事前アンケート結果報告」
山口県社会就労事業振興センター
就労支援コーディネーター 山田 篤

2) 第2回研修会の概要

日程	令和2年1月16日	会場	山口県社会福祉会館	参加者	34名
目的	一般就労移行についての職員のスキル向上と意識啓発				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の就業支援についての基礎研修 ・ 本事業を活用した就労支援について 				

(プログラム)

- 13:30~13:45 挨拶 山口県健康福祉部 障害者支援課 社会参加推進班
主幹 小澤 俊昭
特定非営利法人 山口県社会就労事業振興センター
理事長 益原 忠郁
- 13:45~14:30 研修1 障害者一般就労移行チャレンジ事業を活用した
一般就労支援について
就労移行支援事業所 セルフ ジョブ・アソシエイト
就労移行支援課 課長 今井 洋平 氏
障害者一般就労移行チャレンジ事業検討委員会 委員長
- 14:30~14:45 休憩
- 14:45~16:30 研修2 「就職支援の基礎」(就職支援活動から定着支援)について
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山口支部
山口障害者職業センター
主任障害者職業カウンセラー 清家 慎太郎 氏

3) 第3回研修会の概要

日程	令和2年2月18日	会場	山口県社会福祉会館	参加者	25名
目的	事業の成果報告と来年度の実施について告知				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業見学会・説明会、チャレンジ実習の実施報告 ・ チャレンジ実習に参加した利用者、支援者、企業担当者による討論 				

(プログラム)

13:30~13:40 挨拶 山口県健康福祉部 障害者支援課 社会参加推進班
主幹 小澤 俊昭
特定非営利法人 山口県社会就労事業振興センター
理事長 益原 忠郁

13:40~14:30 「B型事業所一般就労チャレンジ事業」の概要と実績について
講師：山口学芸大学教育学部
教授 佐藤 真澄 氏

14:30~14:40 休憩

14:40~15:50 パネルディスカッション

「B型事業所一般就労チャレンジ実習」の実際について

コーディネーター：山口学芸大学教育学部 教授 佐藤 真澄

パネラー：特別養護老人ホーム アスワン山荘 川本 勉 氏
障害福祉サービス事業所 サムラ 三藤 賢次 氏
同上 (利用者) 平田 勝也 氏

セルフジョブ・アソシエイト

(B型チャレンジ事業調査員) 今井 洋平 氏

15:50~16:00 次年度「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の計画と募集時期について
山口県健康福祉部 障害者支援課 社会参加推進班
主任主事 河村 真吾

2. 「障害者一般就労移行チャレンジ事業」職員研修会の参加者アンケート

1) 第1回研修会の参加者アンケート

(宇部会場)

研修の参加人数 : 55 人
アンケート回収数 : 45 人
アンケート回収率 : 81.8%

(下松会場)

研修の参加人数 : 26 人
アンケート回収数 : 25 人
アンケート回収率 : 96.2%

《結果》

問1. 参加者について

1) 現在勤務している事業所等の事業種別

	宇部会場		下松会場		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
就労継続支援A型	5	11.1%	2	8.0%	7	10.0%
就労継続支援B型	16	35.6%	11	44.0%	27	38.6%
就労移行支援	10	22.2%	5	20.0%	15	21.4%
生活介護	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談支援	6	13.3%	5	20.0%	11	15.7%
上記以外の障害福祉サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
障害者就業・生活支援センター	6	13.3%	2	8.0%	8	11.4%
その他	2	4.4%	0	0.0%	2	2.9%
有効回答	45	100.0%	25	100.0%	70	100.0%

※「その他」は就労継続支援B型事業準備中

2) 参加者の職種

	宇部会場		下松会場		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
職業指導員	7	15.9%	2	8.0%	9	13.4%
生活支援員	4	9.1%	2	8.0%	6	9.0%
就労支援員・就労定着支援員	8	18.2%	2	8.0%	10	14.9%
相談支援専門員	4	9.1%	5	20.0%	9	13.4%
管理者・サービス管理責任者	16	36.4%	10	40.0%	26	38.8%
障害者就業・生活支援センター等の関係機関の職員	5	11.4%	2	8.0%	7	10.4%
その他	0	0.0%	2	8.0%	2	3.0%
合計	44	100.0%	25	100.0%	67	100.0%

3) 就労経験に携わった経験年数

※ 現在の事業所・職種に限定せず、また直接的、間接的を問わず。

※ 1年未満を「1年間」、1年以上2年未満を「2年間」として回答。

	宇部会場		下松会場		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1年未満	5	11.1%	0	0.0%	5	7.4%
1年以上5年未満	21	46.7%	7	30.4%	28	41.2%
5年以上10年未満	11	24.4%	10	43.5%	21	30.9%
10年以上	8	17.8%	6	26.1%	14	20.6%
有効回答	45	100.0%	23	100.0%	68	100.0%

平均年数 宇部会場：6.5年、下松会場：9.3年、全体：7.5年

問2. 本事業について

1) 「就労継続支援事業所の利用者を一般就労へ結びつける」という本事業の趣旨についての考え

	宇部会場		下松会場		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
賛同できる	23	53.5%	18	72.0%	41	70.7%
どちらかといえば賛同できる	17	39.5%	7	28.0%	14	24.1%
どちらかといえば賛同できない	3	7.0%	0	0.0%	3	5.2%
賛同できない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	43	100.0%	25	100.0%	58	100.0%

2) 「賛同できる」「賛同できない」の理由（自由記述 原文のまま）

■ 「賛同できる」の理由

- 自分の可能性を気づく、いいきっかけになると思う。
- A型、B型で満足されている方はたくさんいると思う。ステップアップを目指すべきだと思う。
- 事業所の存在意義として、利用者の脱福祉サービスが大前提としてあるため。
- 働く力はあるが、制度や支援があることを知らずにB型事業所等を利用している人も多いと思う。
- 就労できる能力があれば、その能力を活かすべきだと思います、今作業所で安定しているし、仕事もできるので、このままいけば良いのではと考えがちになります。本人の可能性を上手く伸ばす支援が大切で、本人にとってどうすることがベストかを考えられる支援をしたいです。

- 当事業所では、事業所による見学会の実施などを行うことにより、利用者の方も利用していただけるように説明会なども実施しています。ある程度の自助努力も必要だと思います。
 - B型の底上げがあれば移行の利用者不足も少し解消できそうです。
 - 人口減、少子高齢化の影響で生産年齢人口が減ってきている現在、障害者であっても企業の生産活動に参加し、国内の経済活動により深く関わるべき。
 - 一般就労というないし（イメージがつかない）方もおられるのを感じます。具体的な体験、移行事業所の見学でイメージしやすくなると思います。
 - 社会参加と共生を考えれば当然
 - 社会に気づき就労B→就労A→移行→雇用と進むことはとても良い。
 - 大人の社会見学を通して、自らの能力に気づくこと。
 - 即雇用での見学ではなく、気軽に見学、体験ができること。
 - 実際に移行事業所としても1～3日の小雇用体験は社会に気づく良いきっかけになる。
 - 就労継続事業所の利用者さんが一般企業で働きたいという思いを持って移行支援事業で社会的スキルを身に付けて一般就労するという流れができたら良いと思います。
 - 趣旨については賛同できる。具体的な方法をしっかり練っていただきたい。
 - 今日事業の趣旨説明を聞き、当事業所の中に対象者が4～5名（登録13名）いたから
 - 正直少しもの足りなさを感じます。就労移行支援への移行が就職へ結びつくとは思わないし、今得ている収入（A型で当事業所は7万円平均給与）をどうやって保証するのか
 - 企業と障害者と企業社員の理解
 - 企業での実習がなかなかできない。システムとして稼働すれば、企業が障害者を理解しやすく、事業に参加した利用者さんに将来実習や雇用のチャンスが広がると思う。
 - 現状そういう思い出で働いている。
 - 障害者の持っている力が最大限にいかされたらと思う。
 - 就労経験の無い方が多くなっている現状から、知る機会は大変良いと思います。
 - 権利条約から見れば当然のこと。
- 「どちらかといえば賛同できる」の理由
- 福祉就労から移行できる利用者については、自立に向けての一步になる事業だと思うが、受け皿（企業）の理解が関係機関同士の連携等に、課題はまだ大きくあるように感じた。
 - 少ない時間でもいいので、働きたい方が沢山いる

- よい試みと思うが、気持ちを一般就労に向けるのに事業所見学ではなかなか向きにくいのでは・・・
- 本人の意向が一般就労に向いていけばよいと思う。企業が労働者としてとらえることと結びつく事が必要だと思う。
- 生活保護を受給している人は、一般就労したときの人との交流等を考えると、今のままがよいと思う人が多く不安が多くなっているように思うことがある。
- 社会参加への不安や収入の安定感を希望しながらも、次に進むことができない人も多いと思う。理解度の問題も多々ある。
- 事業所には経営という点も考えながらならない部分もあるので…
- B型事業所から就職したいという利用医者さんがいらっしゃるのですがごく事業に魅力を感じるが、移行等を利用してスキルを身につけて就職した方が良いのではないかと感じている。
- 一般就労はして欲しいので、いろいろな方法があればと思います。
- 実際、一般就労できている。企業とのマッチングが一番難しい。
- 利用者の方が就職したいと思えば就職に向けて支援はしています。
- 利用者のニーズであれば支援すべき
- 就労移行やナカポツの方がノウハウを持っているので連携の体制はしっかりすべき
- 十分な理解が企業にあればなお良い
- ただし、就職6ヶ月の定着がゴールではなく、5年、10年、働き続けるスタートであると感じられる事業にしてほしい。
- 次の就労先での人間関係がわからなくて嫌がられる方がいます。一般就労で長く働いていけるなら移行支援できると良いと思います。
- いきなり一般就労は難しい。しっかりしたアセスメント(本人意思を含めて)が必要と考える。
- 利用者さんの将来を考えれば一般就労して自立することが一番だと思いますが、B型事業所としては利用者さんの定員確保の面では不安なところもあります。
- 相談支援事業所として、サービス利用計画を作成する上で一番困るターゲットとこの事業の対象者は親和性が高いと思っています。計画相談が始まる前からサービスを利用している方は、夢や希望を聞いても今の暮らしで良いと言われる方が非常に多いです。ある意味、そうした利用者の割合が多い事業所に焦点を充てて取り組んでも良いのではないかと考えています。是非、県内の各相談支援事業所のみを集めて意見交換する機会を作ってもらえたらと考えます。就労移行や一般就労に繋がなくてもできない状況にあります。ケーススタディの条件としては5年未満ということですが、ぜひご検討いただきたい。

■ 「どちらかといえば賛同できない」の理由

- 就労継続支援B型の中にも、一般就労が困難な方を多く抱えている事業所は難しい。
- 一般就労の実績が多い事業所を表彰するというのは…？就労が困難な方への支援などにもスポットを当てて欲しい
- A型・B型事業所とも、一般就労を目指す人の割合がそう多くないと思う。
- 就労移行は就労移行支援事業所の役目だと思っているから。役割を分担すべき。

3) この事業に参加してみたいか？

(事業所としての意向ではなく、個人の興味関心として)

	宇部会場		下松会場		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
ぜひとも参加したい	10	27.0%	9	37.5%	19	31.1%
参加してもかまわない	22	59.5%	15	62.5%	37	60.7%
できれば参加したくない	4	10.8%	0	0.0%	4	6.6%
絶対に参加したくない	1	2.7%	0	0.0%	1	1.6%
有効回答	37	100.0%	24	100.0%	61	100.0%

問3. 就労移行に関する自身の考え

1) 「一般就労への移行を妨げている要因」とされるものに対する考え

2会場の合算 有効回答：68人

	そう思う		どちらかといえば そう思う		どちらかといえば そう思わない		そう思わない	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
利用者（障害のある本人）の希望・意欲	21	30.9%	38	55.9%	9	13.2%	0	0.0%
利用者（障害のある本人）の認識・情報不足	22	32.4%	34	50.0%	9	13.2%	3	4.4%
利用者（障害のある本人）の作業能力	14	20.6%	35	51.5%	17	25.0%	2	2.9%
利用者（障害のある本人）の社会適応能力	23	33.8%	35	51.5%	8	11.8%	2	2.9%
利用者の家族の意識・考え方	25	36.8%	30	44.1%	11	16.2%	2	2.9%
支援者（事業所の職員等）の就労支援のスキル	14	20.6%	41	60.3%	13	19.1%	0	0.0%
支援者（事業所の職員等）の意識・考え方	18	26.5%	26	38.2%	22	32.4%	2	2.9%
事業所の方針・経営上の判断	20	29.4%	28	41.2%	15	22.1%	5	7.4%
企業の理解・知識	22	32.4%	31	45.6%	10	14.7%	5	7.4%
相談支援（アウトリーチを含む）の体制	15	22.1%	32	47.1%	18	26.5%	3	4.4%
関係機関との連携体制	15	22.1%	37	54.4%	14	20.6%	2	2.9%
社会情勢や景気（地域ごとの事情を含む）	17	25.0%	21	30.9%	25	36.8%	5	7.4%
制度設計の不備・矛盾	18	26.5%	29	42.6%	19	27.9%	2	2.9%

2) 第2回研修会の参加者アンケート

研修の参加人数	: 34 人
アンケート回収数	: 33 人
アンケート回収率	: 97.1%

《結果》

問1. 研修会の内容について

1) 「障害者一般就労移行チャレンジ事業を活用した一般就労支援」について

① 講義内容について理解できましたか？

	5 理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった	有効回答
人	14	11	7	1	0	33
%	42.4%	33.3%	21.2%	3.0%	0.0%	100.0%

② 難易度はいかがでしたか？

	5 とても 難しい	4	3	2	1 とても 簡単	有効回答
人	1	5	21	4	2	33
%	3.0%	15.2%	63.6%	12.1%	6.1%	100.0%

③ 一番印象に残った内容は何ですか？（自由記述 原文のまま）

- 通勤に片道1時間かかるとしたら、本人にとってできないこともないかもしれないが、もう少しこの辺から考えることの重要性は大事と行った事。
- ネットワークの構築により、チャレンジしやすい仕組みを作る。
- 就労継続Bでもチャレンジできること。
- チャレンジ事業の仕組みについてよくわかった。
- 企業見学、体験実習は、一般就労を考えるきっかけになる。
- サービスを上手に使い、気軽にチャレンジできる考え方。
- 活動目的の見学から実習を企業26社、事業所22事業所が協力して行っていることが印象に残った、一事業所でも選択の幅が狭くなってしまうので、利用者さんのためにいい活動だと思った。
- 一般就労でしか得られない経験が有る(失敗を含め)。
- チャレンジ事業について詳しく知ることができた。

- どんどん事業を活用しましょう
- 障害者一般就労移行チャレンジという言葉は初めて聞きました。勉強不足でした、全般に渡り今後深めていきます。
- 一般就労という選択肢を知らないまま、福祉的就労を選ぶのは「自己決定、自己選択」とは言えないということ。私の事業所でも一般就労に対するイメージは全くなく、現状で満足する利用者や関係者がいらっしやると思います。あくまでも最終的には自己決定なので、その方の歩みたい道を歩むこととなるかと思うが、選択肢を広げ行くことについては私どものような支援者がきちんと尽くしていかなければならないと思いました。
- B型事業所に対して行っていた職場見学、実習が印象に残りました。山口県東部(中部)でも機会を増やしてほしいと思います。私の事業所はA型ですが参加できれば、考えていきたいと思いました。
- 一般就労という選択肢、一般就労という情報を知ってもらうことが必要だと感じました。
- B型チャレンジ事業として会社見学会や体験を行い、その後の検証調査を実施されていること。現場でも利用者さんが「就職したい」「就労移行に行きたい」と言われるが、何処まで気持が持続できているかいつも疑問に思っていたので、実際の生の声を確認できるのは良いと思います。

2) 「就労支援の基礎（就職活動支援から定着支援）について

① 講義内容について理解できましたか？

	5 理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった	有効回答
人	7	13	7	5	1	33
%	21.2%	39.4%	21.2%	15.2%	3.0%	100.0%

② 難易度はいかがでしたか？

	5 とても 難しい	4	3	2	1 とても 簡単	有効回答
人	2	7	18	4	2	33
%	6.1%	21.2%	54.5%	12.1%	6.1%	100.0%

③ 一番印象に残った内容は何ですか？

- 長く働き続けるために、本人や企業等愛 WINWIN になれるよう調整はいつでも必要。
- 就業・就労・就職の使い分け、定義、違い、言葉の意味するものを考えさせられた、演習は

実際の支援のイメージができてわかりやすかった。

- 我々の支援先は利用者で、企業側への支援は行いませんが、企業側への支援を考えることで、企業の不安、負担、ニーズがよりよく理解できた。
- ネットワークの重要性。
- 企業ニーズに即した支援。
- 就職のための支援についてよくわかった。
- 事例に沿った演習。
- 事例紹介で、様々な支援について考える機会や他の人の意見が聞けたことがよかった。
- 就労支援サポート、アプローチはとてもむつかしいことが分かった。しかし良い勉強になった。
- 他の研修でも学んでいたので復習になりわかりやすかった。障害者雇用に際し表で見たことがないものでしたので印象に残っている。
- 情報収集して、分かりやすく説明して本人に決めてもらうことが大切であること。
- 事例紹介
- 就労支援について基本的な方法を再度認識することができた。
- 企業支援は考えていく支援。事業所のルール、マナーを尊重。
- 演習（就労を含め障害者支援のむつかしさ）。
- 障害者の職場定着や就労までに、私がまだまだ知らないような機関が幾重にもネットワークを組み細やかな支援を展開しているということを改めて実感した。
- とても実演はよかった。今までで一番良かった。
- 定着支援での事例が参考になりました。現在事業所でも直面している、する可能性のある事でしたので参考にさせていただきます。
- 全て、根性論になってしまう私には、とても必要なことをたくさん吸収できました。検討課題も立場によって考えられることがいろいろあってすごく刺激になりました。
- いろいろなことが参考になった。最後に講師から、定着支援で大切なこととして「情報収集」⇒「整理」⇒「考えて行く」⇒「本人に保護者を交えて考える」⇒「本人に選んで貰う」の繰り返しと言われたのがとても重要に思えた。
- 一人の方の就労支援をしていくのに、関係機関の情報交換やネットワークがとても大事だと思いました。

問2. 実務での活用等について

1) 今回の研修で受講した内容は、事業所で役立てることが出来ますか？

	できる	ややできる	できない	有効回答
人	14	19	0	33
%	42.4%	57.6%	0.0%	100.0%

3) 第3回研修会の参加者アンケート

研修の参加人数	: 25 人
アンケート回収数	: 25 人
アンケート回収率	: 100%

《結果》

問1. 研修会の内容について

① 今回の研修会を通じて「B型チャレンジ事業」に興味が持てましたか？

	5 持てた	4	3	2	1 持てない	有効回答
人	15	7	2	0	0	24
%	62.5%	29.2%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%

② 今回の研修会で、一番印象に残った内容は何ですか？

- 佐藤教授のお話で具体的に（数値化したり比べたり）チャレンジ事業の目的、あり方、検証を聞いたこと。
- チャレンジの実習先マップがあればどのような企業が雇用の実習に興味があるのか分かる。
- 企業側のメリット（知る必要もないかもしれないが）知ることで、お互いに実習しやすい環境ができるのでは。
- この事業の目的が B 型から移行へ行かせる、加算が取れるよう仕組みをつくってもらうための実績づくりという側面を持つというお話です。
- 参加利用者の平田さんがとても意欲を持ち、行動されるようになった話。
- 一般就労への意欲への伝わり、今後のチャレンジ実習の継続。一般就労への変化のこだわり。
- 就労経験のない方へ実習へのチャレンジをうながしたこと。
- 利用者の方（平田さん）本人の言葉で、その思いや意見を聞いたことがとてもよかったです。
- B 型事業所の利用者にとって、企業に行って見学ができ、関心あれば体験させてもらえることで利用者の意向や自信につながる。いろいろな機会があると一般就職にもつながっていくと思われる。
- 体験→自信→目標の実現。
- B 型利用者の方も状況を整えばいろいろな能力の間くチャンスは多いと思う。周囲の支援者、受入側の理解などハードルはあるがとても良い事業と思っています。来年度も広がって

いくことを期待、祈念しております。

- B型～移行支援～一般就労をめざす
- 本人さんたちの気持ちの変化。自信につなげていければと思う。
- 実習した後に意欲が上がった点、一般就労への理解があった点
- 利用者と支援者のギャップ。利用者の意欲が伝わっていない、利用者の自己効力感が低い。
- 当人、支援者での意欲に対するギャップがグラフ化されていて参考になる所がありました。
- 将来的に A 型事業所も対象にしていいただければと願っております。また、支援学校から卒業して直に事業所に来た若者も多くいるので、一般企業をよく知らない利用者に参加してもらえたらと思います。(事業所の力だけでは、職場見学の場の確保が難しいです)。
- 参加者の気持ちが聞けたこと
- パネルディスカッションでの参加者の声
- 利用者の一般就労「意欲」を把握できているか？決めつけている部分が多い。3日(半日)の充分か短いかは別にして、この3日で利用者を初め企業側、事業所側に与える影響の大きさを感じた。
- 障害福祉サービス事業所サムラの利用者さんの話がとても良かったと思います。
- 合同企業見学説明会→チャレンジ実習、3日間体験できること。職場体験ができること。幻覚症状など自分に合った場所環境を選べる場所。
- 本人の自信と意欲の広きに違いがあること。本人はしたいと思っているのに支援者には伝わっていないことがあるということ。
- パネルディスカッションで当事者の実際の声が聴けて良かった。
- 利用者の一般就労に対しての再確認(家族を含め)。
- 実際に参加された利用者の話が聞けたこと
- 今までやったことのない作業をして、出来るようになり、就労に向けて意欲的になったところがよかったですと思いました。

問2. 次年度「障害者一般就労移行チャレンジ事業」の計画と募集時期について内容について理解できましたか？

	5 理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった	有効回答
人	14	9	1	0	0	24
%	58.3%	37.5%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%

問3. 今回の研修会の内容は、事業所で役立てることが出来ますか？

	できる	ややできる	できない	有効回答
人	14	10	0	24
%	58.3%	41.7%	0.0%	100.0%